第２回　横浜市都筑区民文化センター指定管理者選定評価委員会会議録	
日　　時	令和５年 12 月 12 日（火）13 時 15 分～18 時 00 分
開催場所	都筑区役所３階　研修室
出　席　者	間瀬委員長（公益社団法人全国公立文化施設協会 事業課長） 林田委員（都筑多文化・青少年交流プラザ 館長） 星野委員（ムジカ・パストラーレ 副団長） 森島委員（中小企業診断士）
欠　席　者	木下委員（中川連合町内会 会長）
開催形態	一部非公開（傍聴者８人）
議　　題	１　会議の公開・非公開について ２　応募資格等の確認について ３　選定方法の確認について ４　面接審査 ５　採点審査（指定候補者の選定）
決定事項	１　つづきアート＆メディアパートナーズを指定候補者に決定した。 ２　委員会の選定結果について、都筑区長に報告することとした。
審議内容	１　会議の公開・非公開について 応募資格等の確認、選定方法の確認、及び応募団体の面接審査におけるプレゼンテーション及び質疑応答部分は公開とし、指定候補者の選定に係る採点審査は非公開とした。 なお、傍聴者のうち、応募団体の関係者については、自身が所属する団体以外の団体の面接審査及び質疑応答部分を非公開とした。 ２　応募資格等の確認について 事務局より、応募のあった４団体が当公募の欠格事項に該当しないことを報告した。 ３　選定方法の確認について 事務局より、面接審査の流れ及び選定方法についての説明を行った。 ４　応募団体の面接審査 (1)　団体Ａ ア　プレゼンテーション イ　質疑応答 ウ　財務状況の報告、個人採点（非公開） 【質疑応答詳細】 （委員）施設の館長及び舞台チーフの配置換えについて、応募団体としてどのように考えているか。

	また、ソーシャルインクルージョンの視点で、地域の孤独、孤立に関し、劇場が果たす役割についてどのように考えるか。 （回答）館長及び舞台チーフについて、指定期間中に交代することは代表企業として考えておらず、一人の人間に担っていただく予定である。 　また、地域の孤独、孤立への対応については、アプローチ方法に難しい課題があると認識している。これまでも他の文化センター等において、広報や関係団体との連携によりアプローチをしてきているが、すべては網羅できていない。継続的に取り組むことが必要と考えるとともに、アプローチ方法の見直しについても検討の必要があると考える。 （委員）クラウドファンディングについて、計画しているとおりに寄附が集まらなかった際に、どのように対応する予定か。 　また、都筑区という区をどのように分析されているか。他にはない新しい提案を都筑区ならできると考えた理由は何か。 （回答）クラウドファンディングが収支計画のとおりに集まらなかった際のリスクは、当団体が負うものと考えている。なお、これまでも他の指定管理施設においてチケット収入や利用料金収入が当初計画に定める金額に満たなかった場合において、当団体が指定管理者としてリスクを負っている。 　次に、都筑区の特性としては、人口増加率が市内でナンバーワン、年少人口比率もナンバーワンであり、非常に若い街であると認識している。若い方にとってクラウドファンディングはいまや当たり前になっているため、共感を得られやすいと考えたとともに、これから大人になっていく方々が町を支える一つ方法としてクラウドファンディングを導入したいと考えている。 （委員）人件費における「臨時人件費」とはどのようなものか。 （回答）想定される稼働に則り人員のシフト表を作成するにあたり、人件費を抑制するため固定人員を最小化したが、ホールの稼働状況がいい日や催事の内容によっては配置する人員だけでは賄えないことがある。このような場合に、単発的に臨時の人員を工面する費用として「臨時人件費」を想定している。 （委員）その場合の、臨時の人員というのは、外部の派遣会社などから派遣していただくことを想定しているのか。 （回答）技術会社である弊社の社員が対応することを想定している。

	(2)　団体Ｂ ア　プレゼンテーション イ　質疑応答 ウ　財務状況の報告、個人採点（非公開） 【質疑応答詳細】 （委員）施設の館長及び舞台チーフの配置換えについて、応募団体としてどのように考えているか。 　また、ソーシャルインクルージョンの視点で、地域の孤独、孤立に関し、劇場が果たす役割についてどのように考えるか。 （回答）人事に関わることなので、現状具体的な名前を申し上げることはできないが、基本的に５年間同じ人間が務めていくことを考えている。特に、新規施設の最初の５年間であるので、信頼関係を築く意味でも重要であると考える。 　また、ソーシャルインクルージョンについては、施設に来やすい環境をハード面、ソフト面ともに整えることや、地域の団体との連携を通してサポートしていくことが望ましいと考える。 （委員）インクルーシブな受入れを実現する施設とするために、団体として、スタッフ育成をどのように考えているか。 　また、地域連携について、具体的にどのように結び付けていくのか、お聞かせいただきたい。 （回答）非常に難しいことと認識している。福祉施設ではないので、そういったことに特化した教育はできないが、どなたにも丁寧に接する、ということは障害の有無、置かれた環境によらず、全ての市民、区民に共通することと考えている。これを実現できるよう日常的に研修を実施し、また責任者がその意識を植え付けていくことを徹底する。 　文化事業を通して、そういった方々が行きたいと思えるような発信を行っていくとともに、実際に来られた際に「また来たい」と思ってもらえるようなスタッフのサービス、接客が重要と考える。 　地域連携の進め方については、拠点の有無や活動内容など、それぞれ異なる団体の特性に応じて、それらの要素を結び付け、団体間の会話を促していくことなどにより、事業を実施してきた経験がある。団体にどういった要素があるか地域コーディネーターが丁寧に聞き取り、組み立てることで、実現可能と考える。

	（委員）質問ではないが、「ステージコンシェルジュ」の取組は、利用者にとって良い提案だと感じた。 （委員）申請書類を確認すると、構成企業の一つは、ある期において、コロナの影響により業績が悪化したとの記載があるが、今後同様の事態が生じた際にどのようにリスクに対応するか。 （回答）全ての構成企業において考えられるリスクであり、事業の多角化により平準化していくことも必要と考える。また、業績が悪化したが乗り越えた実績もあるので、それらを踏まえて今後も取り組んでいく。 　加えて、構成企業全てにおいて、基盤収益を盤石化させることにより、未曾有の事態にも対応していく。 (3)　団体Ｃ ア　プレゼンテーション イ　質疑応答 ウ　財務状況の報告、個人採点（非公開） 【質疑応答詳細】 （委員）施設の館長及び舞台チーフの配置換えについて、応募団体としてどのように考えているか。 　また、「都筑芸術士」として、地域で活躍する芸術家個人に地域貢献していただく制度の提案もあるが、この制度のもと活動する方にはギャランティが発生するのか、又はボランティアなのか。 （回答）館長及び舞台チーフともに配置換えの予定はない。 　芸術士については、自身の音楽家としての経験からも、ギャランティを出すことを考えており、ボランティアということは考えていない。 　なお、本事業はアウトリーチ事業として、市の芸術文化教育プラットフォームと連携するとともに、芸術士に登録した方が館を利用する際には、後援・共催・協力などしたいと考えている。 （委員）多くの事業をご提案いただいているが、これらの事業はどなたが担当されていかれるのか。また、受付スタッフをはじめ、事業担当者以外の人の配置をどのように考えておられるか。 　加えて、スタッフ育成についてどのように実施していくか。 　また、まちづくりの中における多文化共生についてどのように考えるか。

	（回答）配置については、事業別に事業担当者を置くことを考えている。また、受付スタッフなどは、事業の中身をお客様へご説明することもあり、そういった意味で事業の一端を担うため、総合的に事業に関わって運営していくことを考えている。 　スタッフ育成に関しては、これまで様々な事業を展開してきた経験から自信があるとともに、構成企業が持つノウハウやマニュアルも活かしながら、施設運営に係る研修メニューをともに作成し、実施していく考えである。特に個々のスタッフのスキルを上げることはもちろん、指定管理業務や施設の職員が外部からどのように見られるか、といったことも日々の研修を通してすべての職員に理解してもらうことを考えている。 　また、共生社会については、障害者や外国人とのつながりなど、少しずつ取り組んでいる一方で、まだまだ分からないこともある。ボッシュ社やつづきＭＹプラザ、そのほか関係する団体と協議しながら、どのように取り入れればいいかを考え、実施していきたいと考える。現状やっていることではまだまだ足りないと考えている。 （委員）ロビーを使用した「みんなのライブラリー」について、具体的にどのようなジャンルの本を置くことを考えているか。 （回答）都筑の歴史や横浜の歴史といった郷土史の中から読みやすい本を選定するほか、気軽に読んでいただける絵本を置くことにより、親子の来館などに繋げたい。少しの滞在でも、会話が生まれるような場になるようにと考えている。 (4)　団体Ｄ ア　プレゼンテーション イ　質疑応答 ウ　財務状況の報告、個人採点（非公開） 【質疑応答詳細】 （委員）施設の館長及び舞台チーフの配置換えについて、応募団体としてどのように考えているか。 　また、「愛称募集」に関して、愛称を募集しようとしている諸室の範囲及び手順についてお聞かせいただきたい。 （回答）館長について、少なくとも５年間は同じ人物を配置したいと考えている。

	ありとあらゆる案件に対応する必要があるため、これまでの管理実績においても経験のあるスタッフを配置したい。舞台チーフは直接イベント担当者や地域住民とのやり取りがあり、こちらも経験を多く積んだ者を配置予定である。 　愛称募集については、基本的にリハーサル室を想定しているが、利用者が練習室や会議室などを利用される中で愛着が湧き、呼び名が生まれるようなことも想定されるので、その状況次第でリハーサル室以外の愛称を公募することも考えている。 　公募の方法は、施設に立ち寄って投票いただくほか、インターネットでの投票なども想定している。地域の方に名付けていただいた部屋をご利用いただくことで、ますます施設に対する愛着を感じてもらうことや、投票いただいた方が自分の名付けた部屋のある施設に知人をお連れ頂くことなども期待して、このような提案をした。 （委員）リハーサル室やホールの平日料金が安く設定されていると感じる。愛称が加われば、より活性化されるのではと思う。 （回答）他の区民文化センターを管理する中でも、平日のホール利用は苦戦することも多い。愛着が生まれ、利用者が増えることも期待している。 （委員）都筑区周辺のエリアは初めて参入されるように思うが、都筑区の魅力をどのように分析されたか。 　また、市民活動が活発な都筑区において、地域と繋がることは容易ではない。言葉にするのは簡単だが、地域と繋がる・連携するために具体的に何から始めるのか。 （回答）都筑区の魅力については、住民の連携がよくとれており、自治意識の高い地域という印象を持った。自治意識の高さは地域の活性化に、強固なコミュニティは防犯や安全につながっている。また、文化活動も非常に盛んであり、都筑区から発信して横浜市に波及していく文化が多数あると感じた。 　加えて、若い方が多く、市内の暮らしやすさが 18 区で一番と感じている。１世帯あたりの人数も多く、遊び場、教育施設、医療も充実しているエリア。こうしたところに魅力を感じ、これまで培ってきた知見を発揮したいと思い、応募に至った。 　地域との繋がりについては、文化意識が高い都筑区だからこそ、「区民が主体的に関われる仕組みづくり」を提案した。区民文化センターが、文化芸術を通じて区民間交流を掘り起こし、地域の課題を解決するための一助となればと考えている。既に地域活動をされている方から、まだ地域活動に参加

	されていないような方まで巻き込んで、区民文化センターを中心とする文化交流の場を築き上げたいと思い、このような提案をした。 （委員）多文化共生の社会、まちづくりについて、どのようにして実現できると考えるか、お聞かせいただきたい。 （回答）異なる文化や言語、バックグラウンドを持つ人との対話を通じて、互いの文化や価値観を尊重しあうことが大切と考える。例えば、私たちが行うイベントを通じて、お互いの文化を理解しあう機会を提供するなど、包摂的で多様性を尊重したアクティビティが地域社会にポジティブな影響を与えると考える。ワールドミュージックを提案したのも、都筑区は他区に比べ、そういった要素を受け入れていただきやすい環境があると認識しているからこそである。 　新しい文化を取り入れることを発信することで、より共感もってもらえるものと考える。また、海外の文化を積極的にイベントの中に取り込むことで、日本の方々を含め一緒に文化を作っていける、と考える。 （委員）収支にある「本社事務経費」とはどういったものか。 （回答）一般的な会社でいう、販売管理費や一般管理費負担分などのほか、事務費の印刷製本代なども見込んでいる。 （委員）代表団体の財務状況について、コロナ禍を脱したことを要因としてか、ある期において大きく売り上げが伸びているが、その前の売上げはどうだったのか。 （回答）弊社はお客様に集まっていただくイベントを中心とした事業を展開していたが、コロナ禍ではそれができないということで、根幹から事業自体が厳しい状況だった。昨年度はコロナの影響が薄れてきたこともあり、自粛していたクライアントが再開したいという需要が増えたため、売上げも戻ってきた状況である。 　2019 年、2020 年は瞬間的に人を集めるイベントから、展示などの長い時間をかけて人を集めるイベントに切り替えてきた。初期投資が多く、経常利益が厳しい状況だったものの、現在はそのノウハウも上積みとなり、事業活動を行っている。 （委員）「レセプショニスト」とは、受付スタッフのことで間違いないか。

（回答）ご認識のとおり、受付スタッフのことである。

5　採点審査（非公開）

面接審査を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計した。

応募団体の評点は次のとおりであり、最低制限基準点の 540 点を超えていることを確認した。

順位	団体名	評点
1	団体Ｂ （つづきアート＆メディアパートナーズ）	708 点
2	団体Ｄ （つづきシティクリエイツ）	702 点
3	団体Ａ （神奈川共立・ハリマビステム共同事業体）	698 点
4	団体Ｃ （都筑文化パートナーズ）	672 点

【審査講評】

(1)　団体Ａ

・クラウドファンディングという新しいアイディアの提案が良かった
・ギャラリーの利用について、貸館だけでなく、事業の検討をしているのが良かった
・館長候補の名前が表明されていたのが良かった
・他区においても多くの区民文化センター運営の実績があり、安心感がある
・効率的、効果的な組織構造であると感じた
・企画内容に優れていると感じた
・財務状況も評価できるものであったが、施設管理事業に依存しているように見えたところが気になった

(2)　団体Ｂ

・インターンシップの取組は良いと感じた
・団体の持つ広報力が優れていると感じた
・地域コーディネーターの役割を伺った際に明確な答えがあり、経験があると感じた
・構成団体のうちの一つが、ボッシュ本社棟の管理会社に内定しているとのことで、一体管理のメリットがあると感じた
・「ステージコンシェルジュ」の提案が良かった
・北部４区の連携という点で面白さを感じた
・構成企業の一つについては、財務状況に若干の不安を感じた

	(3)　団体C ・休館日がないという提案はすごいと感じた ・地域の中で事業を作り上げてきた実績は評価できる ・企画力や地域との連携について優れており、地域を盛り上げていきたいという思いを感じるものだった ・事業の提案内容について実現性が高いものが多いと感じた ・都筑区に精通しているスタッフが運営されるという点で安心感があると感じた ・事業も重要だが、一方で施設の管理も重要であり、その点が弱いように感じた ・企業風土の違う４者がどこまでいい形での連携ができるのか気になった ・これまでやってきたことの活動拠点を区民文化センターに移すだけのように見え、新しい広がりをあまり感じられなかった (4)　団体D ・「パートナーシップ企業」との連携は新しい発想で面白いと感じた ・提案内容がユニークで良かった ・施設管理のうえで安定感があると感じた ・財務状況について安心できるものだった ・SDGｓに関する取組は良いと感じた ・都筑区をどこまで分析できているかという点で、若干心もとなさを感じた ・経費削減に向けた取り組みにもう少しアイディアが欲しいと感じた 【総評】 選定評価委員会で議論し、厳正に審査をした結果、指定候補者をつづきアート＆メディアパートナーズ（株式会社 tvk コミュニケーションズ、株式会社神奈川新聞社、株式会社東急コミュニティー）に、次点候補者をつづきシティクリエイツ（株式会社カルサイト、相鉄企業株式会社）に決定した。 指定候補者には、「都筑区民文化センターの運営を通じて、文化の恩恵を区民に伝えていただくこと」を期待している。
資　　料	・次第 ・タイムスケジュール ・評価・採点方法について ・「加減点項目」の評価について